

## 第5章 集約型都市構造の実現に向けた計画課題の設定

3章でまとめた「現状の交通流動に関する問題点」、4章でまとめた「香川県が目指す主将来都市構造」を踏まえ、集約型都市構造の実現にあたっての計画課題を以下の通り設定する。

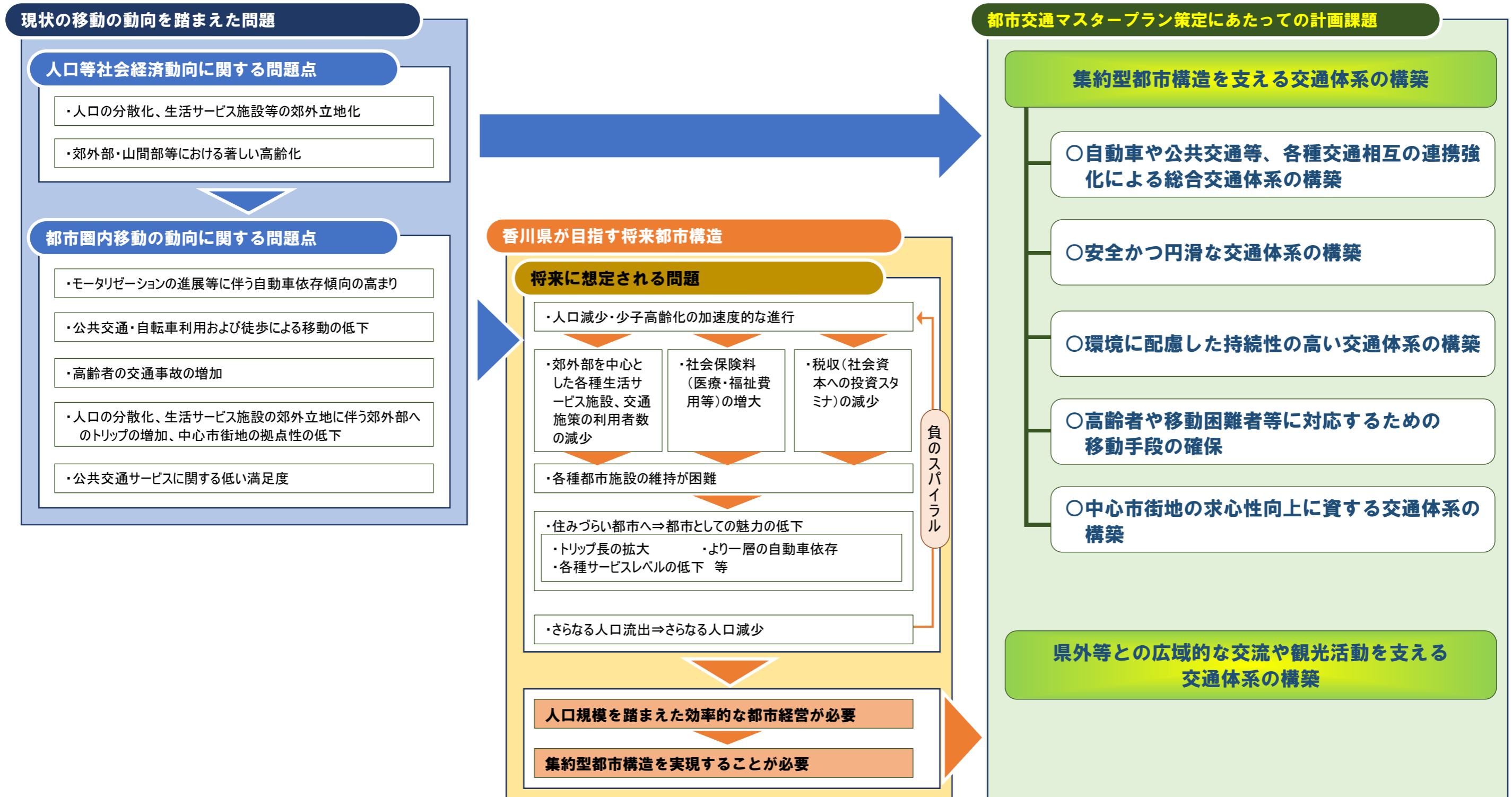


図 5.1 計画課題の設定

### 集約型都市構造を支える交通体系の構築

多極連携型の集約型都市構造への転換を実現するためには、都市構造の核をなす魅力的な拠点形成を図るとともに、都市構造の軸をなす拠点内移動・拠点間移動・拠点内外移動の利便性を高めることにより、ネットワークの強化を図ることが必要である。

また、誰もが快適に移動できることが必要であることから、過度に自動車に依存せず、バス・鉄道を軸とした公共交通の移動利便性を高めることが必要であり、それらを強化することにより、集約型都市構造を支える交通体系を構築することが必要である。

#### ○自動車や公共交通等、各種交通相互の連携強化による総合交通体系の構築

都市圏内の移動は、全体として、自動車に強く依存した構造となっている。

このような現在の交通手段の利用実態を踏まえると、現在の都市構造のままで公共交通を中心とした交通体系へ転換することは現実的ではなく、また、都市圏全体の移動に必要なサービス水準を公共交通でカバーすることは困難である。

そのため、一定の自動車利用は許容しつつ、自動車・自転車～公共交通（バス・鉄道）、公共交通～公共交通（バス・鉄道）の相互連携・相互補完を図り、各交通モードの移動利便性を高めていくことが必要である。

#### ○安全かつ円滑な交通体系の構築

全国平均と比較して交通事故発生件数は依然として多いものの、道路における集中的な交通事故対策の実施や、効果的な交通安全教育、啓蒙活動等、ハード・ソフト施策の着実な推進により、交通事故発生件数は着実に減少傾向にある。

一方で、高齢者が関係する交通事故が増加傾向にあることや、朝夕の時間帯で市町の中心部や幹線道路において慢性的な交通渋滞が生じていることから、都市圏内の住民や来訪者に対し、より快適な移動の支援ができるよう、安全かつ円滑な交通体系の構築が必要である。

#### ○環境に配慮した持続性の高い交通体系の構築

自動車車両の燃費性能向上に伴い、自動車からの排出ガスによる環境への影響は軽減されることが想定されるが、自動車に依存した都市構造のままでは、一層の改善を図るには限界があるものと考えられる。

従って、環境に優しい公共交通の維持・利用促進を図るなど、環境に配慮した持続性の高い交通体系を構築していくことが必要である。

**○高齢者や移動困難者等に対応するための移手段の確保**

高齢化が今後も加速的に進行していく中、高齢者が関係する事故は、増加していくことが懸念される。

また、自動車に依存した交通体系が持続すれば、移動困難者の外出機会が減少していくことが予想される。

高齢者や移動困難者の外出機会の増加は、自身の健康維持に寄与するのみならず、都市圏の経済活動や文化活動の活性化、医療・福祉のコスト削減にもつながることから、高齢者や移動困難者が自動車に過度に頼ることなく外出が可能となる移手段を確保することが必要である。

**○中心市街地の求心性向上に資する交通体系の構築**

モータリゼーションの進展等により、生活関連のサービス施設の立地が郊外に分散化し、中心市街地へのトリップ数は減少傾向となっている。その結果、中心市街地内の商店街の閉店が進み、いわゆるシャッター街化するなど、活力の低下を招いている。

集約型都市構造では、魅力的な核があることが大前提であり、その核として位置づけがなされるのは、一定の都市機能や商業施設がある各市町の中心市街地である。

中心市街地が活性化することにより、その効果が拠点全体や他の拠点に伝播し、魅力的な都市圏の形成や持続的な都市経営につながるることとなる。

従って、中心市街地としての魅力を高めることと併せて、中心市街地の求心性の向上に資する交通体系を構築することが必要となる。

**県外等との広域的な交流や観光活動を支える交通体系の構築**

本県では、瀬戸大橋の供用や高速道路の全線開通、高松空港の路線拡大・利便性向上を機に来県者数が増加しつつあり、うどん県改名によるさぬきうどんブームの定着や瀬戸内国際芸術祭の開催など、観光地としての魅力・知名度も向上している状況にある。

一方で、都市圏内の周遊観光にあたっては、都市圏住民以上に自動車に依存した交通利用実態となっており、自動車を有しない観光客に対しては、都市圏の魅力を十分に堪能するには困難な状況となっている。

地域経済を活性化していくためには、地域間交流の促進が必要不可欠であることから、「おもてなし」の精神を持ち、県内全体で、広域的な交流や観光活動を支える交通体系を構築することが必要である。